

平成19年10月19日

各位

会社名 松尾電機株式会社  
代表者名 代表取締役社長執行役員 清水 巧  
(コード番号：6969 大証第2部)  
問合せ先 執行役員総務・経理部門長 竹野井 薫  
(TEL：(06)6332-0871)

平成20年3月期中間及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等をふまえ、平成19年8月3日の平成20年3月期第1四半期決算発表時に公表した、平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績を下記のとおり修正いたします。

記

A. 中間業績予想の修正

1. 連結業績予想の修正

(単位：百万円,%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	4,100	△ 240	△ 220	△ 240
今回修正予想 (B)	4,113	△ 350	△ 340	△ 390
増減額 (B-A)	13	△ 110	△ 120	△ 150
増減率 (%)	0.3	—	—	—
前年同期実績 (平成19年3月期)	4,036	△ 24	△ 30	△ 43

2. 単独業績予想の修正

(単位：百万円,%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	4,070	△ 250	△ 240	△ 250
今回修正予想 (B)	4,083	△ 370	△ 360	△ 400
増減額 (B-A)	13	△ 120	△ 120	△ 150
増減率 (%)	0.3	—	—	—
前年同期実績 (平成19年3月期)	4,007	1	△ 3	△ 15

B. 通期業績予想の修正

1. 連結業績予想の修正

(単位：百万円, %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,520	△ 140	△ 130	△ 150
今回修正予想 (B)	8,550	△ 320	△ 310	△ 350
増減額 (B-A)	30	△ 180	△ 180	△ 200
増減率 (%)	0.4	—	—	—
前年同期実績 (平成19年3月期)	8,110	△ 216	△ 231	115

2. 単独業績予想の修正

(単位：百万円, %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,470	△ 160	△ 140	△ 160
今回修正予想 (B)	8,500	△ 370	△ 350	△ 390
増減額 (B-A)	30	△ 210	△ 210	△ 230
増減率 (%)	0.4	—	—	—
前年同期実績 (平成19年3月期)	8,049	△ 197	△ 206	41

C. 修正理由

【連結】

当社グループは tantalum コンデンサ、回路保護部品の製造・販売を主たる事業としており、当上半期に於いて連結総売上にも占める割合は前者が約82%、後者が約12%です。

当上半期に於いて、収入面については、主力の tantalum コンデンサは、自動車向け品については堅調に推移し、また、自動車以外の携帯電話、ビデオカメラ、デジタルカメラ等の民生電子機器市場に於いて、下面電極構造チップ tantalum コンデンサを中心に販売促進活動を展開した結果、tantalum コンデンサの出荷数量は前年同期比13.5%増加しました。しかしながら、民生用電子機器市場に於ける tantalum コンデンサの販売価格は当初想定していた水準より厳しく、その平均販売価格は低下して、連結売上高は前年同期比1.0%の増加と、ほぼ横這いとどまりました。

回路保護部品につきましては、メモリーカード等の過電流保護向けに出荷数が増加し、売上高は前年同期比11.9%増加しました。

以上、当社グループの連結売上高は前回発表値に達したものの、前年同期比では1.8%の増加にとどまりました。

費用面につきましては、前年同期に比して大幅に出荷数の増加した下面電極構造チップ tantalum コンデンサの収率、特に出荷数の多い「超小型大容量品」について、漸次改善途上にあるものの目標値に達しないため、製造費用が目標水準を超えて増加しました。

以上の結果、損益面につきましては、下面電極構造チップ tantalum コンデンサの出荷数増加に伴い、tantalum コンデンサの販売品種構成は当年度に入って変化して、その平均販売価格は低下する一方、下面電極構造品の収率改善計画の未達により tantalum コンデンサ部門の採算が悪化し、好調な回路保護部品部門の収益とを合わせても営業損益の悪化は回避できないものと見込んでいます。

また特別損益として、投資有価証券売却益60百万円を計上したものの、保有上場株式（投資有価証券）1銘柄について、時価の著しい下落による投資有価証券評価損31百万円が発生しました。更に繰延税金資産の取崩しによる税金費用57百万円を計上したため、誠に遺憾ながら当中間期、通期の業績はいずれも前回発表値を下回るものと見込んでいます。

今後の見通しにつきましては、下面電極構造チップ tantalum コンデンサの需要は今後とも増加するものと見込

んでおり、これに対して生産設備の増強も実施いたしました。当社グループの業績回復には、下面電極構造品に係る収率の改善がキーポイントとなるため、全社一丸となって当下半年半ばには目標収率を達成する決意で取り組んでおります。また、回路保護部品につきましては、既に販売を開始した5面電極マイクロヒューズは、上述したようにメモリーカード向け等に順調に売上が増加しており、当下半年からはサージアブソーバ、大電流品の販売を予定しており、業績に貢献するものと見込んでおります。

上記施策により、当下半年より業績は回復するものと見込んでおりますが、当中間期の各損益の赤字を補填することは出来ず、通期に於きましても、各損益は赤字に終わるものと見込んでおります。

**【単体】**

上記【連結】に記載した理由と同様の理由により、前回発表値を修正いたします。

(注)上記業績予想につきましては、現時点で入手利用可能な情報からの判断に基づき作成したものであり、様々な不確定要因が内在しています。今後当社グループを取り巻く市場の経済情勢等により実際の業績は、上記記載の業績予想数値と異なる可能性があります。

以 上